

## 嬉野の民話

講師 佐賀民話の会 会長 みやち 宮地 たけひこ 武彦 さん

第2回「郷土研究講座」を、嬉野市立吉田中学校で開催しました。同校では、総合的学習で地域の歴史と文化についての学習を進めていることから、「嬉野の民話」を編集された宮地武彦さんに、地元で伝わる民話について分かりやすく講演していただきました。

熱心な聴講の後に、生徒代表からの謝辞があり、今回の郷土研究講座を終了しました。

## 1. 民話とは

民話とは昔話・笑い話・伝説・世間話の総称です。最初に寝床で、そのあといろいろ端で語られるようになりまし。伝承者の中心は「おばあちゃん」です。聴くときは必ず相槌を打ちます。

嬉野では「むかし」「むかし、むかし」で語りはじめ、「昔むけて、今はまあっきゃ」、「そいばあっきゃ(あ)」、「そいばっかい」で語り収めます。

## 2. 嬉野の民話について

民話の宝庫である嬉野では、昭和53年12月から昭和55年4月にかけて各地区の調査を行い、動物昔話48、本格昔話31、笑話112話を採集することができました。たとえば、「親不孝蛙」「蛇むこ入り」「久惣十(くそじゅう)話」「八兵衛話」などがあります。

「久惣十話」の久惣十は、力持ちのおどけ者で、この話だけでも40話以上語り継がれています。「八兵衛話」の八兵衛は、ずるがしこいのですが次々に失敗するので憎めないところがあります。

この話は、唐津の裏町勘右衛門(かんね)話や大分の吉四六(きつちよむ)話と同型の笑い話です。聞き手はそこを喜んで聴くようです。

嬉野のおいしい米や茶の種は、隣近所にはいかずに一族や親戚に渡ってゆきます。同じように、昔話なども一族で語り継がれていくものなのです。

さらに、嬉野は県内では温泉やお茶と並んで隠れキリシタンの伝説で有名ですが、地域の古老からそれに由来する地名も残っていると聞いています。

## 3. 実際に聴いてみよう

民話は先祖から語り継がれてきた貴重な文化遺産です。ところが、現在ではほとんど語り継がれず滅亡の状態にあります。私は何とか記録に留めなければと思っています。

指導して下さった恩師から佐賀は昔話研究の空白地帯だから、それを埋めるために努力するよう言われています。生徒の皆さんも実際にお年寄りから「ばあっきゃあ話(昔話)」を聴いて語りついでほしいと願っています。

(文責：県立図書館)



## 第4回郷土研究講座のご案内

平成19年2月17日(土)には原城絵図をもとにした第4回郷土研究講座『島原の乱の実態を探る—新発見の原城攻防図から—』を佐賀県立図書館で開催します。皆様お誘い合わせの上お出かけください。